

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東京科学大学(理工学系)

前期日程

科目	化学
----	----

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

東京医科歯科大学と統合し東京科学大学(理工学系)としては2回目の入試であったが、一昨年の旧東工大の通り、理論、無機、有機の分野から出題された。昨年と比較すると、易しい問題が減り、難易度のやや高い問題が増加した。2014年度以降、解答しやすい問題が続いており、今年度もその傾向を踏襲している。ただし、従来の旧東工大らしい問題も出題されている。ミスを最小限に抑えた高得点が要求される。

<特記事項・トピックス>

単純立方格子を扱う問が出題された。以前よく見かけた、典型的な合成高分子の計算が出題された。

<合格への学習対策>

比較的解答しやすい問題が多いが、この傾向が今後も続くとは限らない。安易な暗記学習の積み重ねでは対応できない問題もあるので、日頃から論理的に考える訓練を積むこと。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
第I問					
1	選択	化学基礎	無機	金属の単体や化合物、オキソ酸に関する正誤問題。	やや易
2	選択	化学	無機	金属イオンの系統分離で生じた沈殿やろ液に含まれる金属イオンが示す性質に関する正誤問題。硫化亜鉛が閃亜鉛鉱型の単位格子をとることを知らなければ解けない。	標準
3	計算記述	化学	理論	銅の電解精錬に関する計算問題。	標準
4	計算記述	化学	理論	沈殿滴定に関する計算問題。塩化銀と臭化銀の溶解度積と濃度の関係から、臭化銀の方が先にほとんど沈殿する。このことに気付けたかがポイント。	やや難
5	選択	化学	理論	金属結晶に関する正誤問題。ある原子から、2番目に近い原子間距離にある原子の数を数えるのが難しい。	やや難
第II問					
6	選択	化学基礎	理論	多岐の分野にわたる正誤問題。物理の範囲である、気体分子の二乗平均速度に関する選択肢が含まれている。	標準
7	選択	化学	理論	エンタルピーに関する正誤問題。	標準
8	計算記述	化学	理論	反応速度の計算問題。問iiは、反応速度定数kとBのモル濃度[B]の2つ未知数があるため、連立方程式をつくとよい。	標準
9	計算記述	化学	理論	標準的な化学平衡に関する計算問題。問iiは、平衡定数を分圧の比から求めると速く解ける。	標準
10	計算記述	化学	理論	ヘンリーの法則に関する計算問題。溶解している気体の体積を、接している気体の分圧のもとで表すと一定になるが、この法則を用いると速く解ける。	やや難
第III問					
11	計算記述	化学	有機	合成高分子(アクリロニトリル-ブタジエンゴム)に関する計算問題。	標準
12	選択	化学	有機	C ₆ H ₁₂ のアルケンの異性体に関する問題。構造異性体を漏れなく書き出すことができないと解けない。	やや難
13	選択	化学	有機	芳香族化合物に関する正誤問題。	標準
14	選択	化学	有機	天然高分子化合物に関する正誤問題。	易
15	記述	化学	有機	有機化合物の構造決定。エの、Aの分子内脱水反応はアルコールから炭素間二重結合が生じる反応であることと、160℃で起こる脱水反応が酸無水物を生じる反応であることを、それぞれ判別するのが難しい。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。